



KSK あまねだより



(頒価 20 円)

発行 神奈川県障害者定期刊行物協会
 222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752
 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール 3階
 横浜市車椅子の会内

編集 あまね共同作業所
 239-0805 横須賀市舟倉 1-12-1
 TEL 046-835-0723 FAX 046-833-4062
 2019年3月2日 第419号

あまねの原点 - 36年目を踏み出すにあたって再び考える

原稿を書いている今、桜の花は八分咲きを迎えています。街中を車で走ると一週間前は堅かった蕾も花開き、「ああー綺麗だな、新しい学期が始まるな…」と新たな想いが沸き上がってきます。3月に入り、4月からオープンするグループホームの申請準備や次年度の事業計画や予算案の作成、理事会の準備や開催に追われていたのですが、一段落した月末に一日お休みをいただき石川県金沢市に行ってきました。

金沢が生んだ仏教哲学者・鈴木大拙の考え方や足跡を広く伝えることと、来館者が自ら思索する場として作られた鈴木大拙館に足を運び広い水面をたたえる水鏡の庭に佇んでいると、水面からポコッと水が浮かび、水紋がサーと広がりました。それを見たときに「あっ！あまねの原点」だという思いに至り暫く立ち止まり、35年間の思い出に浸りました。

「あまね」は「周」からきています。この名前に決まるときには様々な候補があがり、準備会で喧々囂々と議論してこの名前に決まりました。「あまねく広く、水面に石を投げ込んだときに起きる水紋のひろがりのように障害者理解が広がってほしい」そんな願いが込められています。鈴木大拙館の水鏡の庭で、水紋を目の当たりして改めて「あまね」の名前の由来と、その時に一緒に準備に携わった関係者と、支援の在り方について熱い議論を交わしていたことや、仲間の方や家族の方とのかかわりが走馬灯のように頭のなかを巡りました。

1981年の国際障害者年を契機に1982年には前年度の国際障害者年の成果をもとに検討された「障害者に関する世界行動計画」が総会で決議され、1983年からの10年間を「国連・障害者の10年」として位置付けられました。あまね共同作業所を開所した昭和58年(1983年)は「国連・障害者の10年」の最初の年で、障害者の方が地域で活動を始めつつあった時期でした。横須賀市においては、成人期の知的障害者の方は就労が主流であり、就職が困難な方や、就労を失敗された方はなかなか福祉に結びついていないのが実情でした。在宅で埋もれていた方たちの実態を表に出し、福祉サービス

がない中で、仲間同士の関係を築くために余暇サークルを立ち上げ、更に新たにできる福祉サービスに結び付ける活動を行ったのは、横須賀市のケースワーカーであった三津屋氏と今は亡き海風学園の植島さんでした。地道な活動であり、その時の記録を見る機会がありましたが、仲間の状態や願い、家族の状況や願いと共にそれに基づいてどのような支援が必要であるか丁寧に書かれていました。植島さんをはじめ多くの方と準備会や事務局会議を重ねて、「仲間を主人公に」「地域に根ざした」作業所を作ろうと開所しました。

支援の原点は、支援者側の想いではなく、利用者の想いであり、丁寧に関係性を作る中で仲間は全身を使って伝えてくれることを、その後の実践で私は学ばせてもらいました。今の私は利用者の方の支援よりも、法人の運営にシフトせざるを得ない状況です。それでも、あまねの原点である「仲間が主人公」であることをどう共有していくかは、時代が変わり制度が先行していくなかでも私が伝えていかなければならない大切な役割であると思っています。今迄の歴史をどう伝えていくのか？嫌だと思って先送りしてきましたが、もうそろそろ文章に纏める時期なのかもしれません。(歳を兼ねれば忘れてしまいます)

36年目に入るあまねを今年度も変わらずの支援をお願い致します。(記・海原)

ヘルパーを募集しています

あまね支援センターでは、ヘルパーを募集しています。1時間からでも大丈夫です。初任者研修(2級ヘルパー)資格をお持ちの方

問い合わせは 支援センター藁谷まで
 046-833-2919

資源回収ご協力ありがとうございます

2月実施分は

15, 112kgでした

(奨励金は60,400円)

次回の日程は別紙にて

お知らせします。

問い合わせは9:00以降にお願いいたします。

☆スケジュール

- 7日 きょうされん映画試写会
- 8日 支援センター会議
- 8日 桜木町 健康福祉センター
- 10日 グループ活動
- 12日 資源回収 池田・岩戸地域
- 13日 資源回収 舟倉・久比里・若宮台
- 19日 生活介護職員会議
- 24日 クラブ活動

☆バザーの予定

- 4月18日 さくらの会販売
- 5月3日～4日 湘南国際村まつり

【あまねのメンバー紹介】

- 角田様・柿島様・宮崎様
- 竹内様・飯島様・加藤様
- 平本様・戸所様・藤宗様

(順不同)

資源回収の折、バザー用品や寄付などを頂きます。お名前を記せませんが、有効に活用させていただきます。



—事務所から見える風景—

あまね共同作業所の3階の真ん中の部屋は本部の事務機能を担っています。利用者の方と直接支援する機会は余りありませんが、食事の時や休憩時間にリラックスを求めてくる利用者の方の様子を垣間見ることがあります。

毎朝、来所と共にやって来るTさん。防火対策のための重い鉄の扉を開け、サッと速足で隣の部屋に入り、ご自分の好きな本を手に取り早速にリラックス。それでも、事務所の職員にも気を使っているようです。ご自分の思いを伝えることが苦手な方なので、来所途中で何かあったのか理由はわかりませんが、ジャンプをされることがあります。その時は、他の場所よりも遥かに静かに行き、なおかつ「いけないの」と呟きながらの様子を見ると、「あー。辛いだろうな」と思います。



昼食後、隣の部屋が大賑わいの時があります。

ソートと覗いてみると、仲間同士で場所を譲りあっています。いつもの場所から少し離れ、他の仲間に場所を譲っている仲間。うまく、空いている場所に身体を滑らせて、好きな本などを読んでいる仲間。やはり空いている場所を見つけ寝そべっている仲間。

ある時、仲間が移動するときあまりにも混んでいたのが、Yさんの身体に一寸触れたようです。その時、いつも静かなYさんが、「エ！これは誰の声」と思うような声を出し怒っている様子にビックリ(*_*;…。仲間の方の意外な一面に触れる時です。

触れてしまった仲間の方もビックリしたのか、サッとその場から離れ、困った様子で、いつも見せる姿と異なり思わずニコリとしてしまいました。



生活介護の請求事務は、本部事務でおこなっています。

請求事務をしていると、日割り計算であるために、年末年始や夏休み、祭日が多い月は報酬が大幅に減収になってしまいます。必要経費は休みが多くても同じなので、せめて基本の部分は固定で出して欲しいと切実に感じます。

社会福祉法人になって3年目になりますが、NPO法人と異なり、費目も少なく特殊な取引もありまだまだ慣れませんが、今日もパソコンと睨めっこして、さあ、頑張ろう！

「獄窓記」 - 山本譲司さんの講演から -

3月3日、社会福祉士会主催の研修会に参加してきました。山本譲司さんの講演は、10年ほど前にも伺いましたが、やはり依然として、刑務所の中にはハンディキャップ(特に知的障害者)のあるかたが、何度も戻ってきている実態があるとのことでした。

今回の講演の中で、私の胸に突き刺さった言葉があります。それは、山本さんが尽力して2006年に厚生労働省と法務省に働くかけ「罪を犯した障害者の地域生活支援に関する研究」という研究班が立ち上がり、研究班の提言によって2009年から罪に問われた障害者の人々への支援は大きく動き出したが、それでも知的障害者の方(特に軽度の方)は刑務所からでてきても福祉の支援を断る傾向が強いとのことです。その理由が「福祉には自由がない」「福祉にいくと1本のレールに乗せられてしまう」「すべて職員に自分のことを決められてしまい、それに従わないとかわいくないと思われてしまう」との声が頻繁にでてくることとです。今迄は刑務所が福祉施設化していることを訴えてきたが、今は「福祉施設の刑務所化」を防がないといけないと警鐘を鳴らしています。

山本さんは、この声を福祉関係者は真摯に受け止め、福祉の在り方を考え直してほしいと…変わるべきは、罪を犯した障害者のほうではなく、福祉に携わる人たちの意識、そして地域社会の意識なのではないかと。

重い言葉だと思います。特に犯罪を起こした障害者に対しては、起こさないようにと考え囲ってしまう傾向になってしまいがちです。私自身も過去に犯罪に手を染めた仲間に関わった時、「どうしたら起こさないようにできるか」と考え、本人を丸ごと受け止めるという基本的な想いに至らなかった経験があります。その時山本さんと共に支援に携わっていた赤平さんから、「丸ごと受け止めることが大事」と諭され、ハッと方向転回した結果、その後何事もなく来ている事実からも、本人の想いを大切にすることこそ一番だと思います。

記 海原

手作りクッキー 販売

あまねクッキー ¥220

●バニラ ●ココア ●マーブル ●チョコ ●抹茶 ●苺 ●シスター

あまねクッキーはこちらで販売中！

- 福岡市役所1階
- ともしびショップ「アイン」
- 国立保健福祉大学
- ともしびショップ「あいはら」
- くまもと花の園「コスモス館」
- 福岡県庁1階
- あまね作業所
- ワークハウスあまね

ぜひ、お立ち寄りください！

お問い合わせ ☎「ワークハウスあまね」

☎046-837-8194

ふきん販売に

ご協力ください！

布地8枚重ね 3枚組

660円

ご注文は作業所まで

046-835-0723